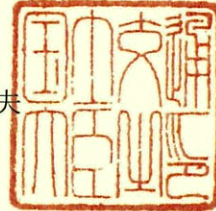


# 認定書

国住参建第 585 号  
令和 5 年 7 月 27 日

J F E 建材株式会社  
代表取締役社長 橋本 直政 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
FP120FL-0237-1
2. 認定をした構造方法等の名称  
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

## 1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床 (合成スラブ)

## 2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
床 厚	80 以上
荷重と支持間隔の 関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支持間隔 2, 200 以下の場合 自重を含めた全荷重 13. 74kN/m<sup>2</sup>以下</li> <li>・ 支持間隔 2, 200～2, 700 の場合 自重を含めた全荷重(w)×支持間隔(L)の 2 乗=66. 49kN 以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す。)</li> </ul>
支 持	単純支持

注) 全荷重=固定荷重+積載荷重

## 3. 構成材料

## 1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
1) デッキプレート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規 格 JIS G 3352(デッキプレート)</li> <li>・ 厚 さ 1. 0、1. 2、1. 6</li> <li>・ 山 高 さ 50<sub>±1.5</sub></li> <li>・ 働 き 幅 300<sub>-2+8</sub>、600<sub>-2+8</sub></li> <li>・ 形状寸法 別添-6 参照</li> <li>・ 種 類 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (1)SDP1T(厚さ 1. 2、1. 6 に限る) (2)SDP1TG(厚さ 1. 2、1. 6 に限る) (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3</li> </ul>
2) コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 種 類 普通コンクリート</li> <li>・ 呼び強度 21～45</li> <li>・ 厚 さ デッキプレート山上から 80 以上</li> </ul>

項 目	仕 様
3 ひび割れ拡大 防止用鉄筋	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (1)溶接金網 <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3551</li> <li>・種 類 (イ)～(フ)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする               <ul style="list-style-type: none"> <li>(イ)WFP</li> <li>(ロ)WFC</li> <li>(ハ)WFR</li> <li>(ニ)WFI</li> <li>(ホ)WFP-D</li> <li>(ヘ)WFC-D</li> <li>(ト)WFR-D</li> <li>(チ)WFI-D</li> </ul> </li> <li>・線 径 6 以上</li> <li>・間 隔 150 以下×150 以下</li> <li>・かぶり厚さ 床上面から 30 コンクリート外端側面から 30</li> </ul> (2)鉄筋(異形鉄筋) <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117</li> <li>・断面寸法 D10 以上</li> <li>・間 隔 200 以下×200 以下</li> <li>・かぶり厚さ 床上面から 30</li> </ul>
4 梁主筋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3112</li> <li>・種 類 異形鉄筋               <ul style="list-style-type: none"> <li>(イ)～(フ)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする</li> <li>(イ)SD295</li> <li>(ロ)SD345</li> <li>(ハ)SD390</li> <li>(ニ)SD490</li> <li>(ホ)SD590A, B</li> <li>(ヘ)SD685A, B</li> <li>(ト)SD685R</li> <li>(チ)SD785R</li> </ul> </li> <li>・断面寸法 D13 以上</li> <li>・鉄筋量 上端 2 本以上 下端 2 本以上</li> <li>・かぶり厚さ 上端 梁上面からあばら筋のかぶり厚さ+断面寸法以上 下端 梁底面からあばら筋のかぶり厚さ+断面寸法以上</li> </ul>

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
5 あばら筋	<ul style="list-style-type: none"><li>・規 格 JIS G 3112</li><li>・種 類 異形鉄筋 (イ)～(チ)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (イ)SD295 (ロ)SD345 (ハ)SD390 (ニ)SD490 (ホ)SD590A, B (ヘ)SD685A, B (ト)SD685R (チ)SD785R</li><li>・断 面 寸 法 D10 以上</li><li>・間 隔 200 以下</li><li>・かぶり厚さ 梁上面から 30+ひび割れ拡大防止用鉄筋の断面寸法以上 梁底面から 30 以上 50 以下 梁側面から 30 以上</li></ul>

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①スペーサー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (1)鉄材 <ul style="list-style-type: none"> <li>・線径、板厚 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径、板厚以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul> (2)セメントブロック <ul style="list-style-type: none"> <li>・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul>

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔 (mm)	自重を含めた全荷重 (kN/m <sup>2</sup> )
2200 以下	13.74 以下
2300	12.57 以下
2400	11.54 以下
2500	10.64 以下
2600	9.84 以下
2700	9.12 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は  $wL^2=66.49\text{kN}$  以下であることを  
確認すること

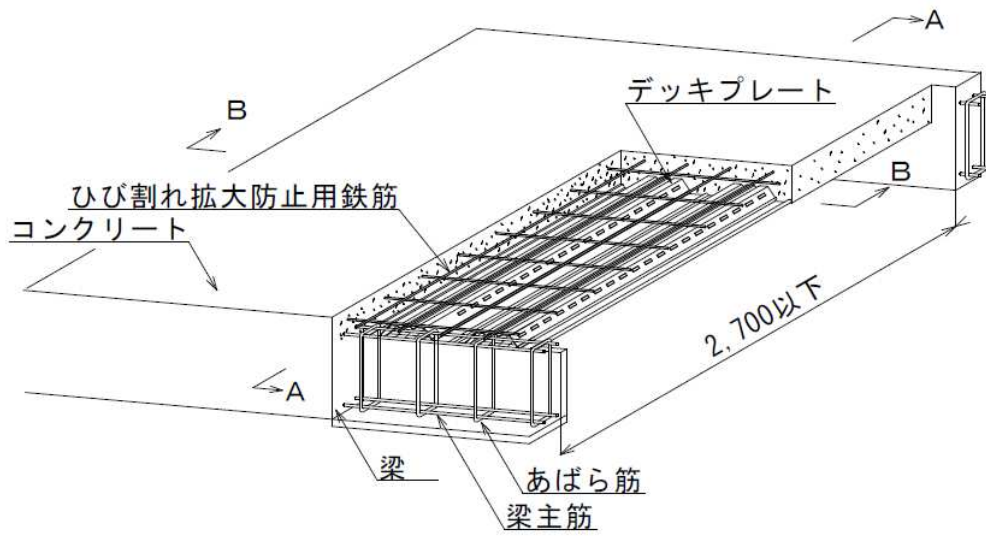
w : 自重を含めた全荷重 (kN/m<sup>2</sup>)

L : 支持間隔 (m)

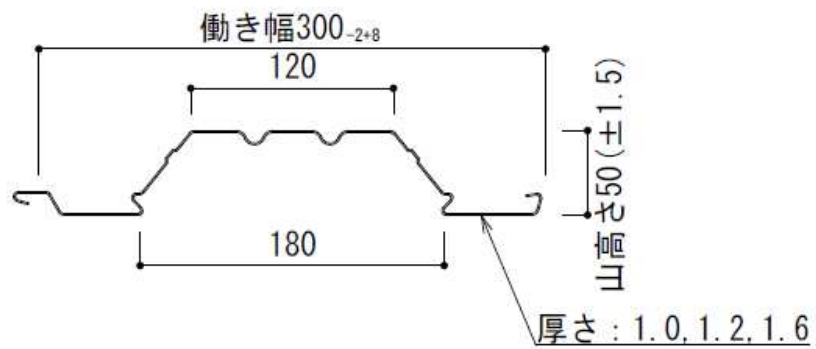
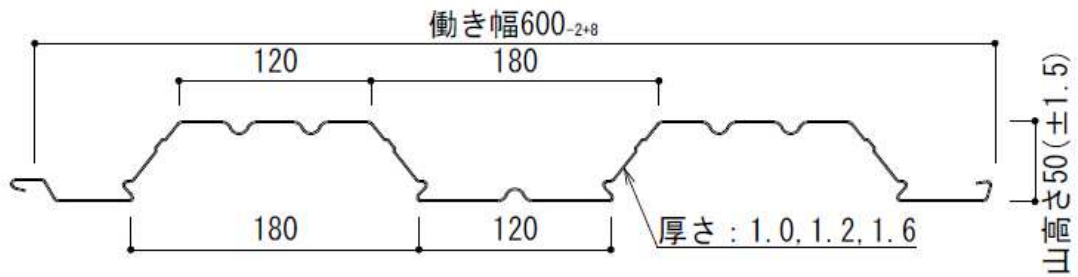
4. 構造説明図

[透視図]

(寸法単位：mm)



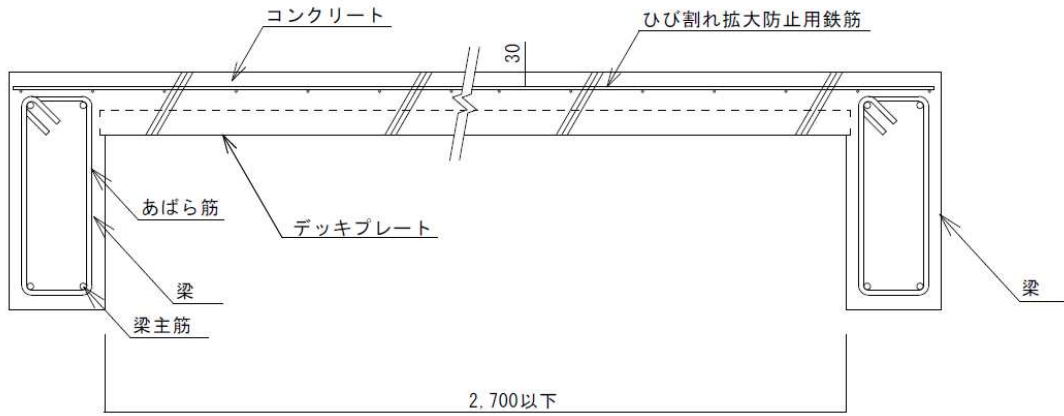
[デッキプレートの形状・寸法]



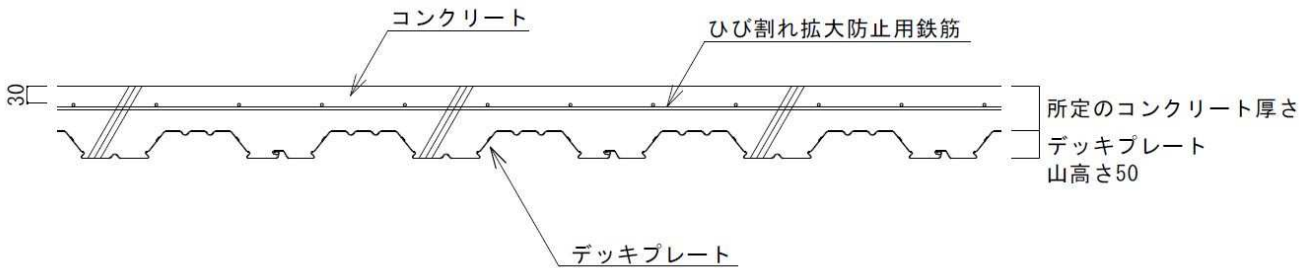
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

[断面図]

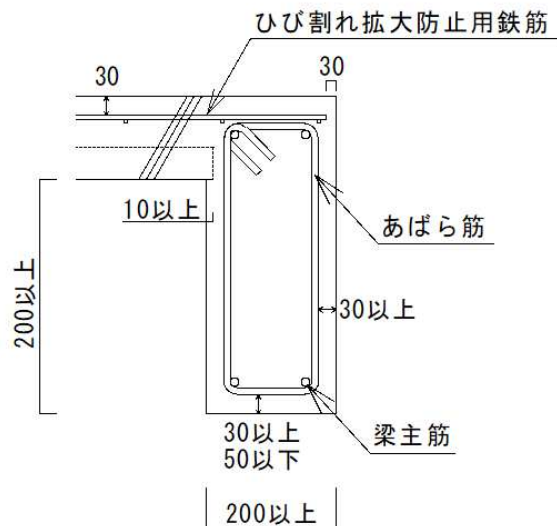
(寸法単位：mm)



A-A 断面図



B-B 断面図



C 部詳細図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり



## 5. 施工方法等

### <施工図>

#### 4. 構造説明図と同じ

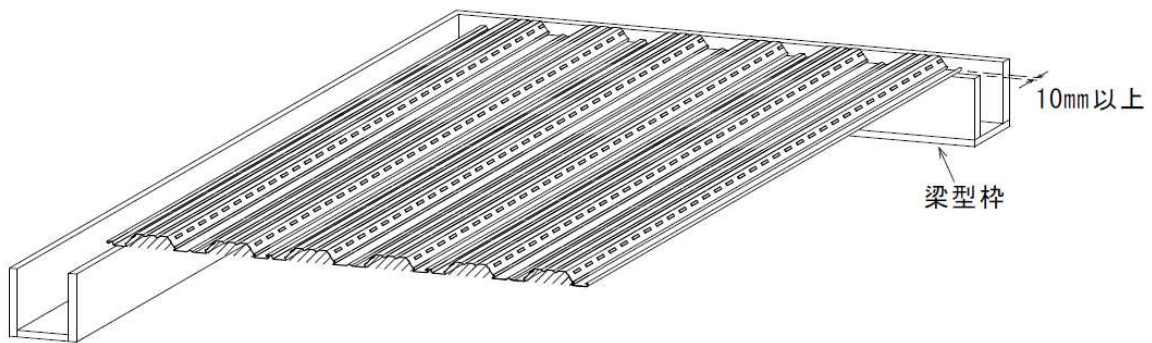
### <施工手順>

#### 1) 梁主筋・あばら筋の配筋

所定の径、ピッチ、かぶり厚を確保して支持梁の梁主筋、あばら筋を配筋する。

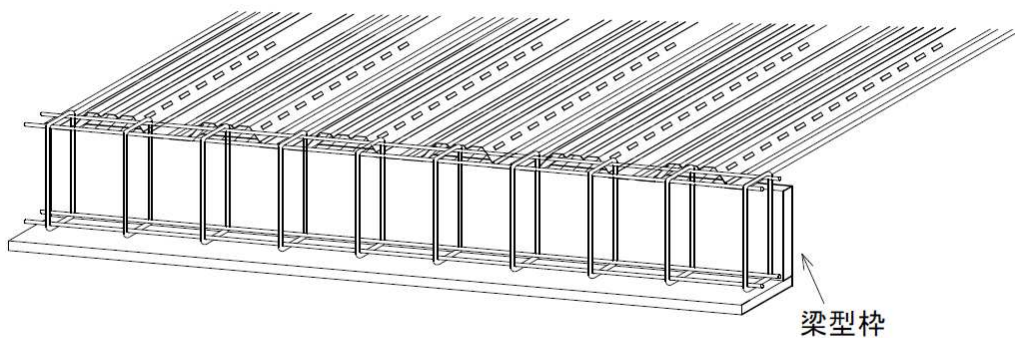
#### 2) デッキプレートの敷込み

支持梁の墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止めした後、順次適当な枚数間隔（5～10枚）毎に仮止めする。



#### 3) 合成スラブと梁との接合

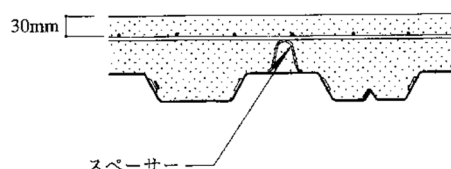
合成スラブと鉄筋コンクリート梁とは、デッキプレートを梁へ10mm以上のみだませ、コンクリートによりスラブと梁を一体として接合する。



#### 4) ひび割れ拡大防止用鉄筋の設置

溶接金網、又は、異形鉄筋をスラブ上面より所定のかぶり厚さを確保して、梁上を含め床全面に敷きならべる。異形鉄線溶接金網を用いる場合の継ぎ手は、延長筋型重ね継ぎ手とすることができる。延長筋型重ね継ぎ手の継手方法は、GBRC 性能証明第 01-08 号改 4、または、GBRC 性能証明第 07-16 号改 2 による。スペーサーは 1.0m 以下のピッチで用いる。

配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて、特記（例えば、構造評定や性能証明を取得した工法の GBRC 性能証明第 01-08 号改 4、または、GBRC 性能証明第 07-16 号改 2）によるか、または、JASS5 の記載例による。



#### 5) コンクリート打設

溶接金網または異形鉄筋が移動しないように注意しながら、コンクリートを不陸なく打ち込む。コンクリートの施工については「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行う。

#### 6) 仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

#### 7) 養生

コンクリート打込み後の養生は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行うが、初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間をとるよう留意する。